

## ひとレポート

実施日：4月25日 科目名：おもしろ「子ども科学手作りおもちゃ体験」科  
講座テーマ：＜もの作りに科学の視点＞「もの作り教育論」  
講師：音田輝元先生

- ◆01 折り紙作り 超楽しかった。孫に教えて一緒に遊べる時が楽しみです。
- ◆02 オモシロ科学の基本楽しく学びました。また、スライム作り、クルクルシャトル楽しかった。
- ◆03 単に学ぶだけではなく、学び・創る方がより楽しく思える。
- ◆04 スライム作りも、クルクルシャトルも楽しく面白かった。子供の頃に帰りました。
- ◆05 スライム作りも、クルクルシャトル、紙コップ作り、分かりやすく説明していただき何とか出来ました。
- ◆06 子供に戻ったようになり、楽しかった。
- ◆07 スライムは初めてつくりました。今の子供には受けるとおもいます。
- ◆08 スライム作り、折り紙作り楽しかった。
- ◆09 ものづくりは、何回作っても楽しい。子供の気持ちがわかります。
- ◆10 楽しい！おもしろい！！子供にもどります。
- ◆11 童心に戻って楽しめました。スライム作りは、初めての経験でした。
- ◆12 音田先生の目がキラキラして、とても楽しそうでした。
- ◆13 くるくるシャトル、スライム両方とも初めて目にしました。これからこのような遊びを、教えてくれるのですか！楽しみです。
- ◆14 クルクルシャトルは、単純でおもしろい。飛ばしたシャトルを受けるコップで遊びもできるので、子供たちも楽しめる。  
スライムも作り方をマスターして、お得意にしたい。
- ◆15 もの作りは楽しいです。ただ作るのではなく、理論も教えるというのは、いいですね。
- ◆16 スライムの基礎資料がくわしくわかってよかった。もの作りの材料一覧など準備するとき、たしかめやすかった。もの作りのくわしいところを知りたいので、ありがたかった。
- ◆17 楽しい授業！！ 帰ってスライムで遊ば！！
- ◆18 はじめての物づくり！大変おもしろく子供と楽しめるアイテムとして最高！
- ◆19 楽しい！おもしろい！！子供にもどります。
- ◆20 童心に戻って楽しめました。スライム作りは、初めての経験でした。
- ◆21 音田先生の目がキラキラして、とても楽しそうでした。
- ◆22 くるくるシャトル、スライム両方とも初めて目にしました。これからこのような遊びを、教えてくれるのですか！楽しみです。
- ◆23 クルクルシャトルは、単純でおもしろい。飛ばしたシャトルを受けるコップ

で遊びもできるので、子供たちも楽しめる。

- ◆24 スライムも作り方をマスターして、お得意にしたい。
- ◆25 もの作りは楽しいです。ただ作るだけでなく、理論も教えるというのは、いいですね。
- ◆26 スライムの基礎資料がくわしくわかってよかった。もの作りの材料一覧など準備するときに、たしかめやすかった。もの作りのくわしいところを知りたいので、ありがたかった。
- ◆27 楽しい授業!! 帰ってスライムで遊ぼ!!
- ◆28 はじめての物づくり! 大変おもしろく子供と楽しめるアイテムとして最高!
- ◆29 おもしろかった。
- ◆30 物造りが科学と関係あるの良くわかりました。
- ◆31 科学教育のポイント良く分かった。
- ◆32 先生は実験より子供たちの様子を楽しまれている! ステキです。
- ◆33 スライム作りおもしろい!
- ◆34 子供たちに科学の面白さの種をまく仕事ってすばらしい。出来るようになりたいなー!
- ◆35 不思議・不思議、スライムがあつという間にできました。
- ◆36 おもしろかった。
- ◆37 如何にして子供たちに科学のおもしろさを伝えるかがカギ。

(注) 受講生は36名です、ひとロレポ1名増えています、そのまま掲載しています。

#### CDのひとロレポ

「クルクルシャトル」「スライム」のおもしろさ、人気はどこにあるのでしょうか?

「クルクルシャトル」は折り紙1枚で2つもできるコストパフォーマンスの高さ、上にほり投げるだけで、クルクル落ちてくる動きのおもしろさ、作ったコップで受けるのが、案外難しいので、チャレンジ心(ココロ)が湧いてくる・・・そんなところが、人気の秘密でしょうか。「スライム」はちょっと科学実験みたいで、しかも魔法の水を入れると、だんだん固まってくる不思議さ、出来上がったスライムのプニョプニョ感、子ども達はその感触にびっくりします。

子ども達にももの作りを伝える時、その目的はなんでしょう。わたしは<ものを作ること>そのものではなく、<もの作りを通じて楽しい時間を過ごすこと>だと考えます。ですから、もの作りをすることで楽しくなくなりそうだったら、作らないという選択肢もあります。大人が子ども達に作ってあげる、作って見せてあげるというのもあります。今ここで、もの作りを通じて楽しい体験をして欲しいというわけです。ですから、そのためには<できた>という感覚と共に、<作って良かった><楽しかった>という感動体験が重要になります。子ども達の心が動くことを気にしたいです。

\*月刊「たのしい授業」より(仮説社) 山本俊樹 おりぞめ染伝人

記:高松真津子